

●理念は“ニーズから逃げない”

宮本：そうですね、堤理事の方で、これから先のビジョンはおありですか？

堤：そうですね。新しいことっていうとなかなか何かな？と思うんですけど、でも確かに新しいことを探している人では自分ではあります。よく仕事しながら言い方悪いですけど、「なんでそんなに事業広げるの？」って言われるんですけど、自分の中の理念っていうか、**ニーズから逃げない**っていうのがあるんですよ。

宮本：なるほど

堤：この言葉をちょっと知り合いに言ったら、それめっちゃかっこいいって言われたんで、もう使い倒してやろうかという言葉なので、**ニーズから逃げない**…

宮本：(笑) 私も今、メモを取っていました。

堤：どういうことかっていうと、先ほどちょっとお話しましたが、富の原竹松は人口がどんどん増えてくると、保育園だって学童保育だって足りない、そういう中でいろんな方と色々な会議で会うと、「堤くんってうちの孫入れんとけど」って言われたら、よし！と思う方なんですよね。「どうにかします」って言って、一件建物建てちゃうみたいなの(笑)

宮本：素晴らしい！

堤：やっぱりどうにかしなきゃ！というのが、何か自分の中で何かそういうのがあって特に今度の4月からですね、水陸機動団、大村竹駐屯地に入ってきますよね、人口も増えるしそういう中で本当に大村って住みやすいなっていうところの一つの生活の保障っていうところで、保育園なり学童っていう役割があると思うんです。その中で、とみのはら福祉会のプライドとして、竹松富の原に住んでいるからには困っているって言わせないようにしなきゃいけないなとは思っています。

宮本：素晴らしい！

堤：そこは近々にやっていかなくちゃいけないなというところですね。ただやっぱり保育園とか制度の中で大村市と一緒に手を携えてやらなくちゃいけないんで、勝手にできない部分はあるんですね。定員を増やしたり、新しく作るのかっていうのは今のところないって言うので、ただ工夫をしながらやっていきたいなっていう思いはありますんで、はい。

宮本：なるほど。会社として社会的存在意義を問われる中で、ニーズから逃げない、というところが根本にあるというか、成長の秘訣なのかなと思いました。

堤：そうですね、成長は自分でするんじゃなくて、やっぱりさせられるものなんだって

う流れでやっている感じはしますね。

宮本：なるほど…。事業をどんどん拡大して成長している代表の方っていうのはこういう方なんだっていうのを改めて何か今日お話して教えていただきました。

そこでもう一つ、保育事業だけではないんですけれども、今保育士さんが非常に足りなかったりしますよね。また出産・育児で、一旦職を離れる方もいらっしゃるっていう中で、どういうふうに人材を確保されていらっしゃるんですか？

堤：そうですね、これ本当に多分うちの業界だけじゃないんですけど、デジタル化は必要ですよ、

今のところうちはものすごくアナログです。うちの職員さんの紹介、あと子育て支援センターなどで保育士経験者の女性の方を見つけられたりもします。

宮本：実際職員の方からのご紹介があるというのが素晴らしいと思うんです。

堤：いや、でもやっぱり離職率とか言ったら、恐らく普通の企業さんよりもパートさんとか合わせるとやっぱり女性なのでいろんな事情が多くあると思います。

宮本：社会的に理解が深まってきたとはいえ、女性はライフステージがどうしても難しいですよ。

堤：いや、これはあんまり言えないけど、昔ね1億総活躍社会って、なんか女性に対して仕事して活躍しろみたいな感じに見えたんですけど、私子育てするだけで男よりも100倍活躍していると思うんで、さらに働けっていうのは、ちょっとつらいかなって思いもありません、あるんですけどね。

宮本：本当にありがとうございます！！（拍手♪）

堤：そこはもう根本的に思っています、いや保育士さんとかすごいなとは思っています。

宮本：いちばん最初に勤めた会社の課長が、課長職なんて簡単で、子育てしている奥様のお仕事の大変さに比べたら自分は大変じゃない、というようなことを言われていました。自分もやってみて初めてその言葉の重みがあるんですけど、ほんと理解がある堤理事がいらっしゃる中で働けるのは大きいですよ。根本にその考えを持っていただいている方かどうかっていうのはすごく大きいかと思います。

堤：ただ現場はやっぱりいろんな工夫を主任たちは苦労して、自分たちもやっぱり母親なのでしょうけど。そういうのもありながら、いろいろと組み合わせしたりとか、本当主任さんたちのそのご苦労に本当に一番頭が下がる思いです。

MC：さっき堤理事からもデジタルDXのって言葉があって、私もなんだろうなと思っていたんです。なんだか教えていただけますか？

宮本:DXはデジタルトランスフォーメーションの略で、それは今までになかった事業とか、新しい産業創造するっていう意味です。今、みんなが取り組んで一步を踏み出して、業務を効率化しようっていうのは、厳密に言えばデジタル改革です。その先に新たな産業創造するとか、新たな事業創造できるっていうDXに進んでいけるのかなと思います。人が足りないとかいうお話もたくさん聞きますけれど、デジタルの力を使って効率化し、人が足りないところまだまだ埋め合わせできるんじゃないかなと常日頃思っています。そういった中で、大村市の中で先駆者的に取り組まれている老舗企業の代表の方をお呼びしてセミナーを企画しています。

MC :それはみんな聞きに行くことができるんですか？ いつでしょうか？

宮本 :はい、ありがとうございます。 3月7日木曜日3時から、ミライ on 図書館多目的ホールで「DX 何が劇的に変わる、今日から取り組む業務デジタル改革セミナー」を主催させていただきます。講師は、九州教具株式会社 代表取締役社長の船橋社長、株式会社LTU 代表取締役社長代表の原田岳様です。それぞれ40分のご講演から、その後トークセッションもあります。本音トークを語っていただこうと企画しています。

堤 :かなり興味深いです。

実は、船橋社長の九州教具さんと、原田社長のLTU、富健さんですね。実は、船橋さんの先代の社長 今現在いらっしゃる本田社長と、富建の先々代なのかなは、経営者研究会を立ち上げたときの人たちなんです。

宮本 :そうなんです！？

堤 :そうなんです。立ち上げメンバーなんですよ。なので63年前です、すごいですよね！63年前に経営者が集まってちょっと勉強する場なんてなかったんですね。そこで有志で作られたみたいな感じなんです。本当にすごいなと思います。そこから勉強してずっと頑張ってきています。

宮本 :存続し続けるというのはすごい意味があって、そのためにいろんなことを変えてこられ、事業を存続、成長させる取り組みをされてこられたと思います。会場ではご質問も受けまますけれど、お申し込みの際にも質問も受付けています。

MC :今日はたくさんお話をいただきましてありがとうございました。社会福祉法人とみのはら福祉会理事 堤康弘様、そして産業支援センターセンター長宮本様ありがとうございました！

宮本 :ありがとうございました。

堤 :ありがとうございました。